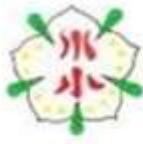


【学校だより】



はまなつめ

第15号

令和7年12月1日(月)

長崎市立川原小学校

校長 神田 学

『一人一人が輝き、笑顔あふれる学校～子どもも教師も輝く学校～』

校内研究について

校内研究とは、学校において、子どもたちの教育のために、教職員が共同で行う研究です。

11月に、4人の担任それぞれの授業を全教員で参観しました。右の写真は3・4年の体育科の授業のようです。3・4年生

が同じ活動をしているように見えながらも、授業者は、3年生は3年生の、4年生は4年生の目標を設定して授業を実施しており、上級生が下級生のレベルに合わせて活動をするということもありません。また、この授業は「教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）」を意識した授業です。教育 DX は、デジタル技術を手段として、既存の教育モデルを見直し、新しいモデルを形成することを目的としています。文部科学省も教育 DX を推進しており、教育の質向上に向けた重要なステップと位置付けています。教育 DX と教育 ICT 化の違いは、教育 ICT 化はデジタルツールの導入に重点を置くのに対し、教育 DX はデジタル技術を活用して教育の構造そのものを変革することを目的としています。GIGA スクール構想による一人一台端末の整備は ICT 化の一環ですが、教育 DX はさらにその先の教育変革を目指しています。

この授業では、動画のタイムラグ再生機能を活用し、実際に撮影した時間から 7 秒後に動画が再生されるようにしていました。自身のマット運動の動きを、試技をしたあとにすぐに確認できる撮影方法です。川原小学校の校内研究では、研究主題を『主体的に学ぶ子どもの育成』、副主題を『児童自ら学びに向かう授業の創造』としています。この授業では、動画のタイムラグ再生機能等を活用することで、子どもたちがより主体的に学習に取り組みました。



右の写真は、2・3年の算数科の授業のようすです。3・4年の体育科の授業もそうですが、子どもたちが主体的に話し合いながら学習の理解を深めていました。



川原小では、担任の先生が、そばにいてもいなくても子どもたちが自分たちで学習を進める姿を目指していますが、その成果が様々な場面でうかがえるようになっています。



夫により、子どもたちが主体的に学ぶ姿が見られました。このことは、校内研究の成果です。

下の写真は授業後の研究会のようすです。授業において有効だった手立てや、今後の課題などを話し合っているところです。このような授業研究を繰り返し、



日々、よりよい授業づくりを目指して取り組んでいるところです。

